国体の記憶 27

天才ロングジャンパーと20年目の国体

最後の国体は、世界レベルで戦ってきた得意の走幅跳で。三段跳での出場も多い

花岡 麻帆さん（船橋市出身）

成田国際高校教諭で、同校陸上部顧問。三段跳の日本記録を持ち、走幅跳の元日本記録保持者でもある。成田高校、順天堂大と進み、実業団を経て平成20年度から現職。国体には、中学3年生から20年連続して出場。アテネ五輪や世界選手権にも出場し、アジア大会では銀メダルを獲得

このコーナーに登場してくれる人を募集します。くわしくは広報課（☎20-1503）へ。

アスリートとしての最後のジャンプという不退転の決意で臨んだ、ゆめ半島千葉国体で、成年女子走幅跳に出場。

ラストの跳躍は、ライバル選手に目の前で2cm逆転された直後に訪れた。頭上で両手をたたくと、観客席から助走に合わせて手拍子が鳴る―6m14cm。再逆転はならなかった。

「最後が2位というのは悔しい。でも、やれるだけのことはやりました。やはり体力の限界なのかもしれませんね」

陸上との出会いは、中学1年生の夏だった。当時、バスケットボール部だったが、陸上部の先生から猛烈な誘いを受け陸上大会に出場。走幅跳で、いきなり県2位、関東4位になった。

「本気で頑張れば全国でも活躍できるかなと思い、本格的に陸上に取り組む決心をしました」

中学3年時に、初めて国体に出場。高校3年時には、日本選手権・インターハイ・ジュニア・国体で優勝し、高校4冠を達成。その後も、世界選手権やオリンピックに出場し、日本跳躍界のトップへと駆け上がった。

地元開催のゆめ半島千葉国体は、自身にとって20回目の国体という節目の大会。しかし、教員という激務と練習を両立しなければならず、調整は万全ではなかった。トレーニングは、授業の合間や部活動の終わる夜などに行った。競技の9日前には、疲労や重圧から学校の朝礼時に倒れ、点滴を受けるほどだった。

「周囲は、仕事の負担を軽減する配慮をしてくれたのですが、自ら志願してクラス担任にしてもらいました。陸上は、あくまでプライベート。一社会人として、妥協したくなかったんです」

競技後の表彰式。2位の台に上がると、教え子・同僚や、市内有志で結成された〝花岡選手を励ますこう会〟など200人ほどの応援団の姿が見えた。思わず大粒の涙がこぼれた。「皆さんに支えられ続けた競技人生も、本当にこれで終わりなんだな…」

今後は、指導者として後進の指導に専念するつもりだ。ここまで導いてくれた恩師や先輩のように、自身が培ってきたものを生徒たちに伝えていく。

「本当にこれで競技引退ですか」との問い掛けに、「誰より負けず嫌いの性格です。21回目の国体に、何気ない顔で出場しているかもしれませんね」と笑顔で答えた。

編集後記

本紙の年末恒例記事となっている「主な出来事」。新聞でいえば10大ニュースのようなものですが、特に順位はつけていませんので皆さんなりのベスト10を選んでみてください。紙面で振り返ると、アイスランド火山噴火時の外国人旅行客支援をはじめ、成田スカイアクセスの開業、成田高校の甲子園での活躍と、成田のイメージアップにつながるニュースが相次ぎました。できれば来年も今年以上に明るい、元気の出る“重大”な出来事が起きてほしいもの。そんなことを願いながら少し早いかも知れませんが、皆さん、よいお年を！

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成22年12月15日号 No.1185　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成22年12月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課
〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話0476-22-1111（大代表）

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす紙を使用しています。

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。